

文部科学大臣
萩生田 光一 様

2019年11月19日
新日本婦人の会

要望書

「地毛チェック」「下着チェック」など、子どもの人権を傷つける 「ブラック校則」はやめさせてください

新日本婦人の会は、創立以来57年間、くらしと平和、子どものしあわせ、女性の地位向上をめざして、草の根から運動を広げるとともに、国連NGOの女性団体です。

ある県の公立中学3年生の子をもつ保護者から「(息子の)地毛である明るめの髪を『黒く染めてこい』と先生から言われた」「(娘は)くせ毛で明るめの髪の色が地毛ですが、『地毛証明を書け』と言われた」など、子どもたちの人権を傷つけるような、「ブラック校則」やそれに基づく生徒指導がおこなわれています。

2018年3月29日の参院文教科学委員会で林大臣(当時)は、社会通念に照らしても合理的でない、「ブラック校則」について、「校則は絶えず積極的に見直すべき」「児童生徒がなんらかの形で参加した上で決定するのが望ましい」と答弁しています。また、下着の色を校則で決め、下着を目視でチェックするような実態について、「児童生徒を指導するに当たって、体罰とか不適切な言動が許されないというのは当然のこと。そこに至る手前でも、児童生徒の特性や発達段階を十分に考慮することなく厳しい指導を行うことは、児童生徒の自尊心の低下等を招いて、児童生徒を精神的に追い詰めるということになりかねない」と懸念を表明しています。

しかし、現在でも、「高校受験」を名目に、「ブラック校則」や指導が行われています。

細かいルールで子どもたちをしばり、自尊心を傷つける指導をおこなうことは、直ちにやめるべきです。とくに中学生は、「受験」や「内申点」でしばられているため、子どもたち自身が意見表明することが難しい状況であることも、指摘したいと思います。

国連子どもの権利委員会は今年2月、日本政府に対し、「子どもが『自由に意見を表明する権利』を確保し、脅かしと罰から子どもを守り、子どもの意見が適切に重視されることを確保すること」と勧告しています。学校現場の改善を求めます。

1、子どもたちを追い詰める「ブラック校則」や生徒指導はやめるよう通知してください